第 17 講 【近代編】帝国主義と諸地域の抵抗

PART1 帝国主義時代の欧米諸国 1

Chapter 1　帝国主義のありよう

目標　19 世紀後半に産業革命がどのように変化したのかをおさえよう。
列強諸国が帝国主義で植民地への進出・分割を行った流れを理解しよう。

1 第二次産業革命と独占資本の出現

①〔　　　　　　　　　　　　〕

A　19 世紀後半からドイツ，アメリカで先行

B　石油や電力を用い，重化学工業が発展

C　金融資本と結びついた**独占資本**が出現

→**資本投下**先として植民地を求める

②独占資本の形成

第二次産業革命は，莫大な資本（大規模な設備投資など）を必要としたため，少数の大企業に生産が集中し，大企業が市場を独占的に支配する**独占資本**が形成された。また，資本を提供する銀行と企業が結びついた**金融資本**が大きな力を持つようになった。

独占資本の形態

A　〔　　　　　　　〕

同一業種の企業が価格や生産量において協定を結ぶ**企業連合**。

B　〔　　　　　　　〕

同一業種の企業が有力資本のもとに吸収・合併されて合同する**企業合同**

C　**コンツェルン**

異なる業種の企業が同一資本のもとに統合される企業グループ

③イギリスやフランス

第二次産業革命に遅れをとったイギリスやフランスは，余剰資本を外国に輸出する
資本投下を盛んに行い，植民地や勢力範囲を拡大

2 帝国主義と植民地の再分割

①植民地の役割の変化

商品市場の確保，原料・資源の供給地，さらには余剰資本の投下先としての植民地の重要性が高まり，列強による植民地獲得競争が激化

②世界の再分割

イギリス，フランス，ロシア，オランダなどに加え，第二次産業革命が進展したドイツやアメリカなども植民地獲得競争に参入，**世界の再分割**が進む

→［　　　　　　　　　］時代のはじまり

③帝国主義時代の特徴

A　1870 年代にはじまった世界的な不況のもとで，中小企業が次々と倒産

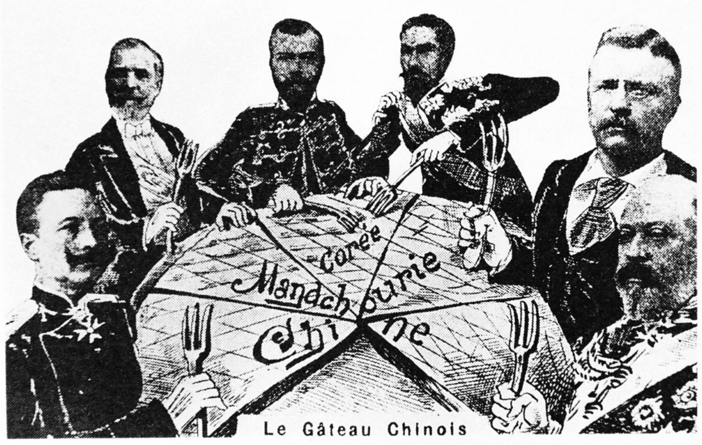
B　のちに**ベルエポック**（すばらしい時代）と呼ばれる

19 世紀末には長期の低成長期が終わり，好景気が持続して一大繁栄期に入る

C　移民が増加

あ　南欧・東欧からアメリカへの**新移民**

い　中国からの**華僑**やインドからの**印僑**



帝国主義で分割している中国

まとめ

重化学工業を中心とする第二次産業革命がアメリカとドイツで先行し，金融資本と結びついて大規模化が進んだ。

第二次産業革命で植民地拡大に乗り出した列強諸国は，互いに牽制しつつ，領土の再分割を進めた。

Chapter 2　イギリスの情勢とフランス第三共和政

目標　イギリスの社会主義政党が形成された過程を知ろう。
フランスが帝国主義政策を進めていった流れをおさえよう。

1　帝国主義時代のイギリス

①イギリスの帝国主義政策

A 「世界の工場」から「**世界の銀行**」へ

B 植民地・勢力圏の拡大

1875 年　保守党の**ディズレーリ**首相が**スエズ運河株式会社**の株を買収
→運河の経営権を握り，「インドへの道」を確保

1877 年　ヴィクトリア女王を皇帝とする**インド帝国**が成立

1882 年　自由党の**グラッドストン**首相が**エジプト**を事実上の保護国とする

1899 年　植民地相**ジョゼフ = チェンバレン**が**南アフリカ戦争**を開始（～ 1902 年）

C 白人中心の植民地を自治領として間接統治

※**カナダ連邦**（1867 年），**オーストラリア連邦**（1901 年），**ニュージーランド**（1907 年），**南アフリカ連邦**（1910 年）。

②国内の動き

1900 年　**フェビアン協会**などの社会主義団体が，〔　　　　　　　　　　〕を結成

※フェビアン協会は改良主義を掲げる社会主義団体で，ウェッブ夫妻や劇作家バーナード = ショーらによって 1884 年に結成された。

1906 年　労働代表委員会が〔　　　　　　〕と改称

※自由党と連携しつつ議席を拡大。

1911 年　〔　　　　　　〕を制定し，下院（庶民院）の優位を確定

1914 年　〔　　　　　　　　　　〕が成立

→**アルスター地方**の反対

第一次世界大戦勃発を口実に実施を延期

1916 年　自治法実施の延期に抗議して**イースター蜂起**が勃発

→以後, 民族主義政党〔　　　　　　　　　　〕（1905 年に結成）が独立運動を主導

2 帝国主義時代のフランス

①対外政策

農業国であったフランスは，イギリス，ドイツに比べて工業化が停滞し，資本投下による利益回収を目指した

1894年　ロシアと**露仏同盟**を結び，ドイツによる国際的孤立から脱出

→大量の余剰資本をロシアへ投資する契機となる

1904年　イギリスと**英仏協商**を結び，対立関係を解消

→ドイツ包囲網の一角が形成される

②国内の動き

19世紀後半，ドイツへの報復，反ユダヤ，反共和政の動きが高まり，政情が不安定

1889年　〔　　　　　　　　　　　　〕

※ブーランジェ将軍によるクーデタ未遂事件。

1894年　〔　　　　　　　　　　　　〕

※ユダヤ系軍人ドレフュスに対する冤罪事件。ドレフュスはドイツのスパイ容疑で流刑に処せられるが，作家のゾラら共和政支持派の救済運動で無罪になる。

→世論はドレフュス支持派と反ドレフュス派に二分された

19世紀末　パレスチナにユダヤ人の国家建設を目指す〔　　　　　　　　　　　　〕がおこる

※ユダヤ人ジャーナリスト**ヘルツル**が提唱。　1897年にスイスのバーゼルで第1回世界シオニスト会議を開催。

19世紀末　労働運動や社会主義運動が高揚。**サンディカリズム**が出現

※ゼネストなど，労働組合の直接行動による社会改革を目指す運動。

1905年　共和政政府が**政教分離法**を発布，国家の宗教的中立を定める

1905年　フランスの社会主義諸党派が〔　　　　　　　　　　　　〕を結成

まとめ

社会主義の諸団体が統合して労働代表委員会が成立し，労働党に改組された。産業革命の進展が停滞ぎみだったフランスでは，ロシアへの資本投下を積極的に行い，帝国主義政策を進めた。

第17講　PART 1　確認問題

1 第二次産業革命の中心国となったのは，ドイツとどこか。

① アメリカ　② イギリス
③ フランス　④ オランダ

2 第二次産業革命において，技術革新の動力源となったものは，石油とあともう一つは何か。

① 蒸気機関　② 石炭
③ 電力　④ 天然ガス

3 同一業種の企業が価格や生産量において協定を結ぶ独占資本の一形態はどれか。

① コンツェルン　② カルテル
③ トラスト　④ 金融資本

4 イギリスの植民地相で，帝国主義政策の一環として南アフリカ戦争をおこした人物はだれか。

① セシル＝ローズ　② ディズレーリ
③ グラッドストン　④ ジョゼフ＝チェンバレン

5 イギリスで 1906 年に成立し，のちに保守党に対抗するまでになった政党はどれか。

① 労働党　② 社会革命党
③ 自由党　④ 民主党

6 イギリスで下院（庶民院）の優位を確定した，1911 年の法律はどれか。

① 寛容法　② 審査法
③ 議会法　④ ホームステッド法

7 フランスの世論が共和政擁護と反共和政に二分されることになった，1894 年の出来事はどれか。

① ヴァレンヌ逃亡事件　② ブーランジェ事件
③ ファショダ事件　④ ドレフュス事件

8 19 世紀末にはじまった，パレスチナにユダヤ人の国家を建設しようという運動はどれか。

① ウラービー運動　② シオニズム運動
③ マフディー運動　④ チャーティスト運動

第 17 講　PART 1　確認問題 解答

1 解答：①　第二次産業革命では，ドイツと**アメリカ**を中心に重化学工業などの技術が発達した。

2 解答：③　19 世紀後半，石油や**電力**を動力源とする技術革新がおこり，重化学工業などが著しく発達した。

3 解答：②　同一業種の企業が独立性を維持しながら，価格や生産量において協定を結ぶことを**カルテル**（企業連合）といい，特にドイツで発達した。

4 解答：④　イギリスの植民地相**ジョゼフ＝チェンバレン**は，帝国主義政策を推進して南アフリカ戦争をおこし，戦争に勝利して，ブール人の 2 つの国家を併合した。

5 解答：①　**労働党**は自由党と連携しつつ議席を拡大し，20 世紀前半に保守党との二大政党になった。

6 解答：③　イギリスでは 1911 年に成立した**議会法**で，下院（庶民院）の優位が確定した。

7 解答：④　ユダヤ系軍人ドレフュスに対する冤罪事件である**ドレフュス事件**は，国論を二分した。

8 解答：②　**シオニズム運動**は，ドレフュス事件にショックを受けたユダヤ人ジャーナリストのヘルツルが提唱した。